

## 平成29年度1月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成30年1月10日（水）午後1時00分～1時40分

場所 市役所2階 第3委員会室

出席 市政記者クラブ7社

### 会見内容

#### 1. はじめに（1項目）

- 記者の皆さま、新年あけましておめでとうございます。  
穏やかに新年を迎えましたこと、心からお慶び申し上げます。  
新年を迎えて最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 昨年は、「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に定めた目標の実現に向けて、さまざまな事業などを取り組んでまいりました。  
本年もさらに全力をあげて各種事業を推進していきたいと考えているところです。
- 本年2月には、韓国・平昌（ピョンチャン）で、釧路市ゆかりの選手の活躍が期待される冬季オリンピックが開催されます。  
選手たちの活躍を、市民とともに応援してまいりたいと思います。
- また同じく2月には新たな情報発信拠点となる新しい図書館「釧路中央図書館」がオープンします。  
今までよりも、さらに市民のだれもが利用しやすい図書館になるよう、さまざまな取り組みをしてまいりたいと思います。
- さらに4月には、これからの10年間のまちづくりの指針となる「釧路市まちづくり基本構想」がスタートいたしますことから、市民の誰もが夢と希望を持って暮らせるまちづくりの実現に努めてまいりたいと思います。
- 観光分野では、一昨年、選定された「観光立国ショーケース」「国立公園満喫プロジェクト」の推進に向け、さまざまな環境整備を進めている中、8月にはピーチアビエーションにより、釧路空港と関西国際空港とを結ぶ定期便が就航いたします。
- この追い風を、ひがし北海道の観光拠点としてのさらなる成長に結びつけていきたいと考えております。
- 本年もみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げ、年頭にあたってのご挨拶といたします。

## 2. 話題提供（3項目）

### 1. 平成29年度第1期くしろ応援ファンド活用事業の決定について

- 平成29年度第1期くしろ応援ファンド活用事業につきまして、「株式会社 郊楽苑ホールディングス」様から応募のあった、「ドライチーズ製造ファンド」と決定いたしました。
- くしろ応援ファンド事業は、地域資源を活用した釧路の価値を高めることにつながる事業へ、全国各地の方々から広く出資を募って、事業を支援する取り組みです。
- 今年度は、通年にわたり応募できるよう3期に分けて募集を行っており、この度、第1期募集に1事業の応募がありましたことから、昨年12月19日に釧路公立大学地域経済研究センターの佐野センター長を委員長として産学金官の委員で構成される、「平成29年度くしろ応援ファンド活用事業選定委員会」を開催いたしました。
- 本「ドライチーズ製造ファンド」は、クラウドファンディングで集めた資金で、広大な釧根の牧場で生産された牛乳から造られた安全・安心な生チーズを原料としたドライチーズを製造し、全国に発信するというものです。
- ドライチーズは、生チーズをこんがり焼き上げ、サクサク感があり、口の中で芳醇な風味が広がる新食感のチーズで、常温保存が可能ですことから、流通性、保存性に優れており、当地の新たなお土産になるほか、ワインバーや飲食店のおつまみ、ウォーキングや登山の携帯食など今後、多方面での需要が期待されているところです。
- 今回の事業を通じて、出資してくださる全国の皆様に付加価値の高い商品をお届けすることで、これまで以上に、釧路の魅力やブランドイメージを全国に広げていくことができると大いに期待しています。
- 今後は、ファンド組成の手続きを進めていくこととなりますが、資金募集が開始される際には、市のホームページやフェイスブックなどでお知らせいたします。

### 2. 平昌（ピョンチャン）冬季オリンピックパブリックビューイングについて

- 釧路市出身の9選手が出場する平昌（ピョンチャン）オリンピックでの女子アイスホッケーの予選ラウンドは、2月10日（土）の日本時間午後4時40分からのスウェーデン戦、2月12日（月）午後4時40分からスイス戦、2月14日（水）午後4時40分からの韓国戦の3試合が行われます。
- 釧路市では、この3試合の模様を、まなぼっと幣舞の大ホールを会場に、パブリックビューイングを実施することにいたしました。

- 女子アイスホッケーの決勝トーナメントについても、現段階で調整中であり、決定次第、お知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

### 3. 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けたホストタウンとしての取り組み状況について

- この度、ホストタウンの取り組みの一環として、独立行政法人 国際交流基金アジアセンター「日本語パートナーズ」派遣事業を活用して、北海道教育大学釧路校の学生6名をベトナムへ派遣することが決定しました。  
派遣期間は3月3日から3月18日の予定となっております。
- 「日本語パートナーズ」とは、東南アジア11か国の中学・高校などの日本語授業において、教師のアシスタントや日本語学習者のパートナーとして日本文化の紹介や現地の文化について学びを深め、アジアと日本の架け橋となることを目的とするものであります。
- 今後もホストタウン事業における市民周知、人的交流、合宿誘致など、さまざまな交流事業を多角的に進めてまいりたいと考えております

### 3. その他（1項目）

#### 1. 平成29年度釧路市津波避難訓練の実施について

- 今回、初めて「厳冬期の避難」に焦点をあて、津波避難訓練を1月11日鶴野・中鶴野地区で、5関係機関、地域住民あわせて200名規模で実施します。
- 避難訓練では、鶴野・中鶴野地区の住民の皆さんに、徒歩で避難所となる鶴野小学校へ、避難をしていただきます。
- また、津波避難訓練終了後には、鶴野小学校において防災講話や備蓄品の展示を行うほか、弾道ミサイル落下時を想定した避難行動訓練も行います。
- 冬休み中でもありますので、ぜひご家族のみなさんでご参加いただきたいと思います。

### 4. 質問要旨

(質問)

- ・ 「日本語パートナーズ」派遣事業とはどのようなことを行うのですか。  
(スポーツ課長)
- ・ 約2週間、ベトナムのビンズオン省とバリヤブンタウ省で、日本語授業など

のアシスタントや釧路の文化などを伝える事業です。

(質問)

- ・ この取り組みは、ホストタウンに登録された都市から選ばれるのですか。  
また、派遣される6名の学生の選考基準とかはありますか。

(スポーツ課 工藤課長)

- ・ この事業の要項では、ホストタウンとして登録されている地域に在住・在学・在勤しているなどの関わりを持つこととされています。  
他のホストタウンの都市の学生から約15グループの応募があり、この事業への意欲などをから今回釧路市のグループが選ばれました。

(質問)

- ・ くしろ応援ファンドのドライチーズはすでに製品化されていると思いますが、集まった資金はどのような用途に使われますか。

(総合政策部次長)

- ・ 生産拡大及び販路拡大のために活用されるものです。

(質問)

- ・ パブリックビューイングには、選手のご家族もいらっしゃいますか。

(スポーツ課長)

- ・ まだ、ご家族とお話しはしていませんが、平昌で観戦される方もいらっしゃると思います。  
選手が所属する三ツ輪商会やダイシンやベアーズなどは観戦応援するという話を聞いています。

(質問)

- ・ 市長はパブリックビューイングにはいきますか。

(市長)

- ・ もちろん行きたいと思います。

(質問)

- ・ まなぼつと幣舞大ホールの定員はどのくらいですか。

(スポーツ課長)

- ・ まなぼつと幣舞の大ホールの定員は806名です。  
前回のオリンピックの時は、放映時間が深夜等になっていたため、300人程度でしたが、今回は3試合とも夕方の時間帯なので、多くの人に来ていただけたと思います。

(質問)

- ・ 決勝トーナメント戦も同じ会場で行われるのでしょうか。

(スポーツ課長)

- ・ 決勝トーナメントは、どの組み合わせになるのかが決まっていなとこと、どこのテレビ局で放送するのかが決まっています。  
まなぼつと幣舞は他の行事が入っていることから、市民文化会館を考えております。  
決まり次第お知らせいたします。

(質問)

- ・ 市で壮行会などは行いますか。

(スポーツ課長)

- ・ 釧路市以外にいる方も多く、集まることが難しいことから考えていません。  
3人の選手が出場するダイシンでは行うようですので、要請があれば関わることも検討していきたいと考えています。

(質問)

- ・ JRの関係ですが、路線を残していくための財源や負担の在り方など、現時点でのお考えはどのようになっていますか。

(市長)

- ・ 私は一貫して「路線単位での話ではなく、言うならば「北海道形成計画」という位置づけ」とお話ししています。

北海道知事が先頭となって行った「本道における持続的な鉄道網の確立について」ということで要請したものをみても、基本的には同じような考え方が盛り込まれていると思います。

負担の在り方は重要な話で、すべての鉄路をとすることは、路線長などを見ても成り立たないと思います。

北海道としても「北海道高速鉄道開発株式会社」の仕組みも含めて進めていこうということで、国による抜本的な支援を要請しているということです。

(質問)

- ・ 交付税措置の拡大や特例措置、過疎債などを活用するのは難しいのでしょうか。

(市長)

- ・ 財源対策として既存の仕組みを利用するなどの話しをすることは自由ですが、あくまでも北海道における鉄路のあり方ということだと思います。

一番重要なのは、持続可能な形を残すためにどのような仕組みを作るのかということであって、金額ありきではないと思います。